

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Business Report

第110期 報告書

2020年4月1日～2021年3月31日



To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第110期（2020年4月1日から2021年3月31日まで）
の営業概況等につきご報告申し上げます。

2021年6月

当連結会計年度におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う経済活動の停滞により厳しい状況となりました。新型コロナウイルスワクチンの接種が開始されましたが効果が出てくるまでには至っておらず、再度の感染拡大の懸念などもあり、引き続き予断を許さない状況が続いていくと思われます。

海外経済におきましては、一部の国では経済活動再開の動きもありますが、依然として多くの国々で新型コロナウイルス感染症により経済活動が停滞しており、米中の貿易摩擦、世界的な半導体の供給不安などもあり、先行き不透明な状況で推移するものと思われます。

このような環境の下、当連結会計年度の売上高は494億9千8百万円（前連結会計年度比6.8%減）となり、営業利益は16億2千万円（同7.4%減）、経常利益は18億9千8百万円（同4.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は12億2千万円（同1.2%減）となりました。

今後の経済見通しにつきましては、国内、海外ともに新型コロナウイルス感染症や米中の通商問題の影響もあり、引き続き予断を許さない状況が続くものと思われます。

当社グループにおきましては、コーティング事業におけるグローバルな事業展開を加速させており、米国、欧州、ASEAN諸国、中国及びインドにおいて現地法人を設立し、「藤倉化成グローバルネットワーク」として、世界各地への供給体制網の整備を行っております。

海外におきましては、ベトナムの新工場の建設を推進しており、2021年度の稼働開始を目指しております。

また、国内におきましては、当社のメイン工場である佐野事業所のリニューアル工事を進めており、第1ステップとして取り組んできた倉庫群の新築工事が竣工いたしました。引き続き生産体制の強化、生産効率の向上を図ってまいります。

また、各事業部の技術部門の協業による新商品開発と、新マーケットの創出を今後の成長エンジンと位置付け、その推進役を担うため、社長直轄の『技術戦略推進室』を新設いたしました。技術開発に引き続き注力することによって事業領域の拡大を図り確実な収益基盤の確保に努めてまいります。

今後も株主の皆さまやお客様の信頼に応え持続的な成長を遂げられるよう製品の供給体制と技術開発に注力していく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

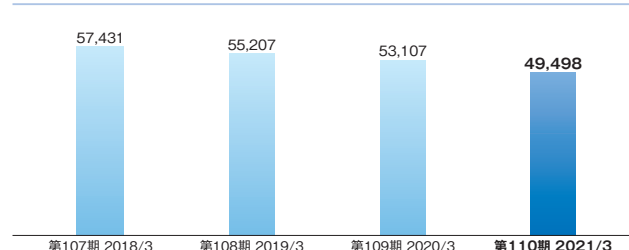
代表取締役社長 加藤 大輔

Financial Highlights

連結財務ハイライト

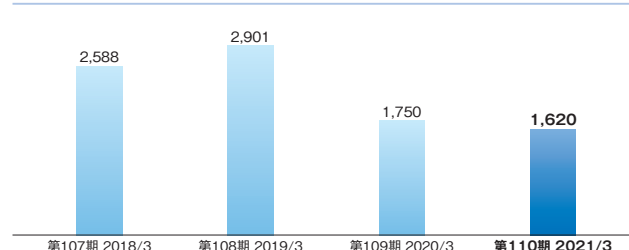
売上高

(単位：百万円)



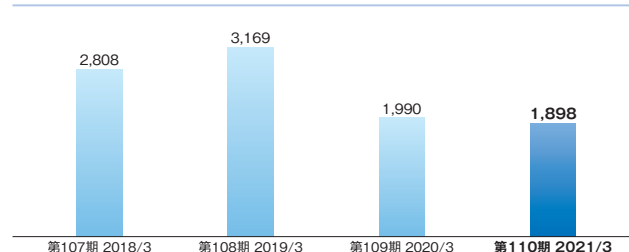
営業利益

(単位：百万円)



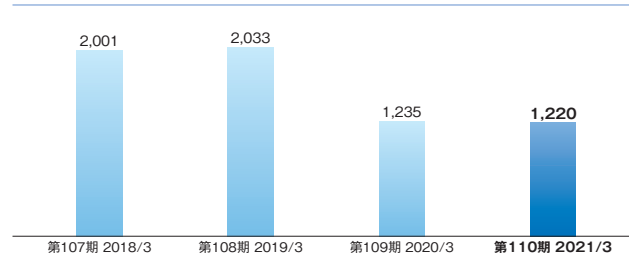
経常利益

(単位：百万円)



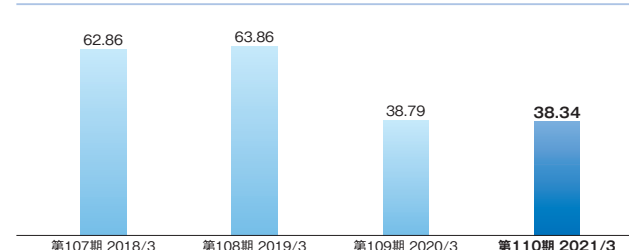
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



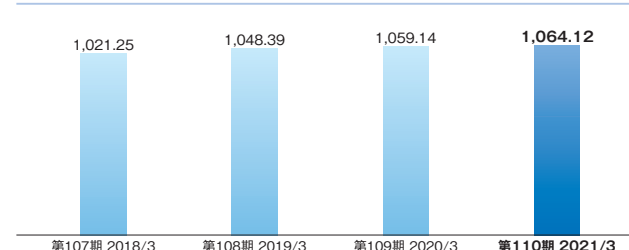
1株当たり当期純利益

(単位：円)



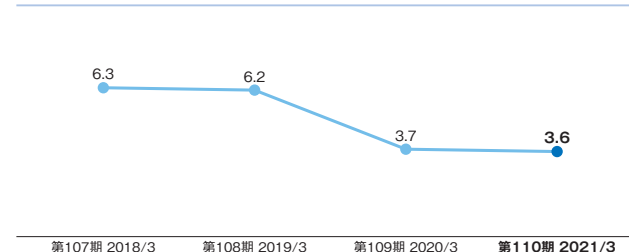
1株当たり純資産額

(単位：円)



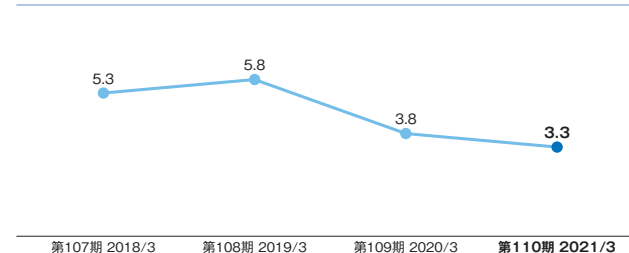
自己資本利益率 (ROE)

(単位：%)



総資産事業利益率 (ROA)

(単位：%)



Segment Review

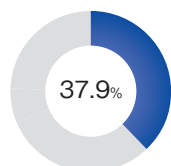
(単位：百万円)

コーティング事業



主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野



プラスチック用コーティング材（『レクラック』・『フジハード』など）を取扱うコーティング部門におきましては、上期は新型コロナウイルス感染症の影響により、主力の自動車向け塗料の販売が、国内、海外ともに低調に推移いたしました。下期は自動車生産台数の回復等に伴い需要が堅調に推移いたしましたが、上期の不振を補うまでには至らず通期の売上は前年割れとなりました。また非自動車分野におきましては、巣ごもり需要等によりホビー用塗料の需要が堅調に推移いたしました。

売上高

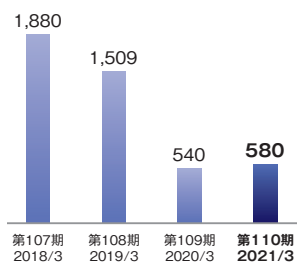
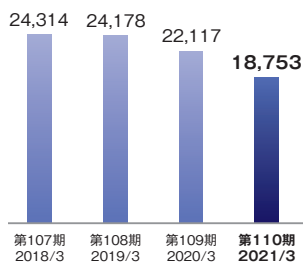
187億5千3百万円

(前連結会計年度比15.2%減)

セグメント利益

5億8千万円

(前連結会計年度比7.4%増)

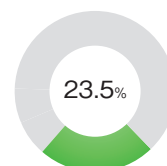


塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

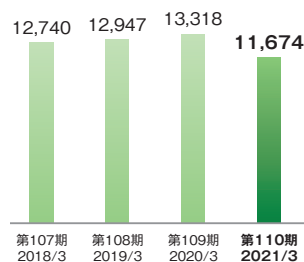


建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、集合住宅リフォーム用の新製品の販売を開始するなど、売上の確保に努めましたが、新型コロナウイルス感染症による住宅展示場の営業自粛やリフォーム工事数の減少により新築用塗料、リフォーム用塗料ともに需要が低調に推移いたしました。

売上高

116億7千4百万円

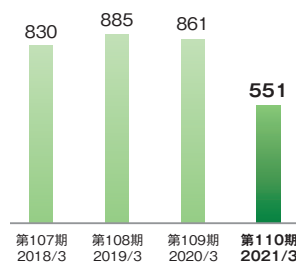
(前連結会計年度比12.3%減)



セグメント利益

5億5千1百万円

(前連結会計年度比36.0%減)

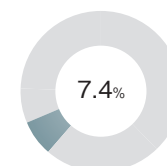


電子材料事業



主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

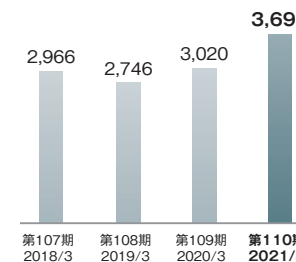


導電性ペースト材（『ドータイト』）などを取扱う電子材料部門におきましては、テレワークの浸透によりパソコン向け製品やIoT家電向け製品の需要が堅調に推移いたしました。また、自動車生産台数の回復に伴い車載用製品の需要が堅調に推移いたしました。

売上高

36億9千5百万円

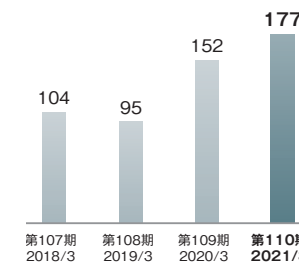
(前連結会計年度比22.4%増)



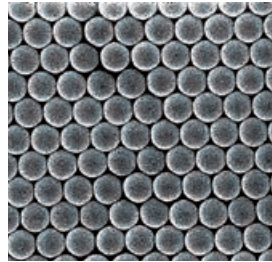
セグメント利益

1億7千7百万円

(前連結会計年度比16.5%増)



化成品事業

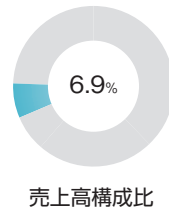


主要分野

トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

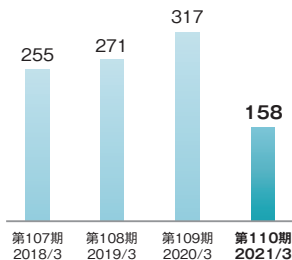
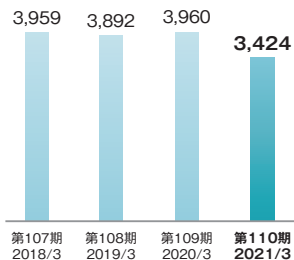
『アクリベース』の商品名で販売する機能材料やトナー用レジ、メディカル材料などを取扱う化成品部門におきましては、テレワークが浸透し、オフィスのペーパーレス化が進んだことにより、トナー用レジの販売が低調に推移いたしました。

また、メディカル材料分野におきましても、新型コロナウイルス感染症の影響による検査数の減少等があり、主力の診断薬の需要が低調に推移いたしました。



売上高
34億2千4百万円
(前連結会計年度比13.5%減)

セグメント利益
1億5千8百万円
(前連結会計年度比50.0%減)



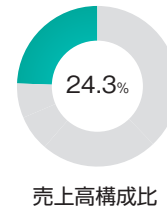
合成樹脂事業



主要分野

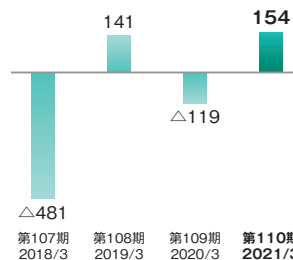
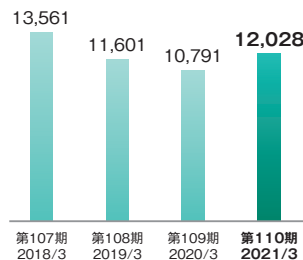
高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、飛沫防止用のアクリル板パネルや液晶テレビ関連製品の需要が堅調に推移いたしました。カーエレクトロニクス分野向け製品の需要が低調に推移いたしました。



売上高
120億2千8百万円
(前連結会計年度比11.5%増)

セグメント利益
1億5千4百万円
(前連結会計年度比－)



会社概要 (2021年3月31日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設立 1938年9月22日
資本金 53億5千2百万円
従業員数 連結 1,259名
単体 435名
連結子会社数 国内 4社 海外 15社
ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 3,463名

TOPIC

当社主力工場の佐野事業所は開設から約50年が経過し、現在、大規模なリニューアル工事を進めております。

この度、第1段階として進めておりました倉庫群の建設が完了いたしました。

これにより多種多様な製品や資材の保管場所と構内のスペースが確保することができ、より安心・安全な生産活動が行える環境となりました。

また、一部の倉庫には資材の搬出入を自動で行えるシステムを導入し、効率化が進みました。

引き続き安全を最優先に、品質、環境、生産効率にも配慮した工場となるようリニューアル工事を進めてまいります。